

授業概要					
学 科	第 2 鍼灸科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	80	実施時間数	80
担当教員	中 詩帆				
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム		
授業目的	あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師として患者を診察し治療可能かどうかの判断を行う際、正しく西洋医学的知識を持つことにより、患者の訴えや身体所見から病名を推測する事ができるようになる。 そのため、代表的な疾患についての疫学や病態、治療法を学習する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、臨床医学各論、第 2 版、医歯薬出版株式会社				

具体的な到達目標	
目標 1	西洋医学の疾患について成因、病態生理について説明できる
目標 2	西洋医学の疾患について西洋医学の観点において診断方法や治療方法について説明できる
目標 3	
目標 4	
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	90%		90%		
平常点		算出方法		算出方法	
出席点		算出方法		算出方法	
その他	10%	算出方法	10%	算出方法	小テスト
試験日	後日伝達		後日伝達		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の实務経験	往診、訪問マッサージ		
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		11章の「A脳血管疾患（a）」について内容の関連を理解し、説明することができる。	
2		11章の「A脳血管疾患（a～d）」について内容の関連を理解し、説明することができる。	
3		11章の「B感染性疾患（a～c）、C脳・脊髄腫瘍（a）」について	
4		11章の「C脳・脊髄腫瘍（a～d）、D基底核変性疾患（a～d）」について	
5		11章の「D基底核変性疾患（a～d）」について	
6		11章の「Eその他の変性疾患（a～c）」について	
7		11章の「F痴呆性疾患（a）、G筋疾患（a～b）」について	
8		11章の「H運動ニューロン疾患（a～b）、I末梢神経性疾患（a～d）」について	
9		11章の「J神経痛（a～d）、K機能性疾患（a～d）」について	
10		11章補足資料①	
11		11章補足資料②	
12		11章 問題演習	
13		10章の「A. 赤血球疾患(a. b. c)」について	
14		10章の「A. 赤血球疾患(d)、B. 白血球疾患(a)、C. リンパ網内系疾患(a)」	
15		10章の「D. 出血性素因(a. b)」について	
16		10章補足資料①	
17		10章補足資料解説②	
18		10章 問題演習	
19		試験前復習 演習問題	
20		試験解説	
21		9章の「C. 動脈疾患(a. b. c)」について	
22		9章の「A. 心臓疾患(a. b)」について	
23		9章の「A. 心臓疾患(b)」について	
24		9章の「A. 心臓疾患(b)」について	
25		9章の「A. 心臓疾患(b. c. d)」について	
26		9章の「B. 冠動脈疾患(a. b)、D. 血圧異常(a. b)」について	
27		9章補足資料①	
28		9章補足資料②	
29		12章の「A. リウマチ性疾患(a)、B. 膠原病(a)」について	
30		12章の「B. 膠原病(b. c. d. e. f. g)」について	
31		13章の「A. 小児科疾患(a. b) B一般外科」について	
32		13章の「C麻酔科 D. 婦人科疾患(a. b. c. d. e)」について	
33		13章の「E皮膚科疾患（a～d）F眼科疾患（a～f）G耳鼻咽喉科疾患（a～e）」	

		について
34		第 13 章の「H 精神科疾患（a～d）、I 心療内科」について
35		第 13 章の「H 精神科疾患（a～d）、I 心療内科」について
36		試験前解説 演習問題
37		試験解説
38		13 章補足資料①
39		13 章補足資料②
40		13 章補足資料③ 問題演習

その他の事項

授業資料を配りますが、基本的に教科書を用いて授業を進めていきます。
資料は自己管理をお願いします。紛失時は各自コピー等に対応して下さい。

授業概要					
学 科	第2鍼灸科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	60	実施時間数	60
担当教員	黒木 裕士				
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム		
授業目的	リハビリテーション医学の全体を理解する。具体的には、リハビリテーション医学の歴史と現状、対象疾患、治療手段・方法等について学習し、各種疾患等の個別リハビリテーション対応を説明できることを授業目的とする。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、新版リハビリテーション医学、文光堂				

具体的な到達目標	
目標 1	リハビリテーション医学の理念・目的・語源・歴史について説明できる。 生活機能分類・リハビリテーションの分野について説明できる。
目標 2	リハビリテーション医療とチーム、地域リハビリテーションについて説明できる。
目標 3	リハビリテーションにおける診断・評価について説明できる。
目標 4	リハビリテーション治療学について説明できる。
目標 5	整形外科疾患のリハビリテーションについて説明できる。
目標 6	神経疾患のリハビリテーションについて説明できる。
目標 7	内部障害とがんのリハビリテーションについて説明できる。
目標 8	高齢者に多くみられる疾患とそのリハビリテーションについて説明できる。
目標 9	小児疾患のリハビリテーションについて説明できる。
目標 10	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	1 0 0 %		1 0 0 %		
平常点	0 %	算出方法	0 %	算出方法	
出席点	0 %	算出方法	0 %	算出方法	
その他	0 %	算出方法	0 %	算出方法	
試験日	後日伝達		後日伝達		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の实務経験	理学療法士としての実務経験		
実務経験をいかした教育内容	リハビリテーションにおける臨床経験を有する教員が、その経験を生かしてリハビリテーション医学の歴史と現状、対象疾患、治療手段・方法等および各種疾患等の個別リハビリテーション対応について講義する。		

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		リハビリテーション医学・医療①理念・目的、語源・歴史	教科書 2-7 頁
2		リハビリテーション医学・医療②生活機能分類	教科書 7-12 頁
3		リハビリテーション医学・医療③リハビリテーションの分野	教科書 12-13 頁
4		リハビリテーション医学・医療④リハビリテーション医療	教科書 13-16 頁
5		リハビリテーション医学・医療⑤リハビリテーションチーム、地域リハビリテーション	教科書 16-24
6		診断・評価学①診断・評価とは、リハビリテーション診療の流れ	教科書 81-92
7		診断・評価学②検査・測定（総論、形態計測、関節可動域テスト）	教科書 92-105
8		診断・評価学③検査・測定（筋力評価、整形外科的検査法）	教科書 105-122
9		診断・評価学④検査・測定（神経学的検査法、ADL の評価、高次脳機能検査）	教科書 122-131
10		診断・評価学⑤検査・測定（運動発達評価、心理評価、摂食嚥下機能の評価）	教科書 131-136
11		診断・評価学⑥検査・測定（筋緊張・片麻痺機能の評価）	教科書 136-139
12		治療学①運動療法	教科書 140-149
13		治療学②物理療法	教科書 149-151
14		治療学③作業療法、言語聴覚療法	教科書 151-160
15		治療学④補装具、自助具・福祉用具	教科書 160-180
16		整形外科疾患①運動器疾患-上肢、下肢	教科書 182-216
17		整形外科疾患②運動器疾患-脊椎、脊髄損傷	教科書 216-231
18		整形外科疾患③脊髄損傷、切断	教科書 231-241
19		整形外科疾患④関節リウマチ・スポーツ傷害	教科書 241-249
20		神経疾患①脳血管障害-基礎知識	教科書 250-259
21		神経疾患②脳血管障害-リハビリテーション治療の要点	教科書 260-272
22		神経疾患③パーキンソン病	教科書 272-278
23		神経疾患④脊髄小脳変性症・多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、末梢神経障害、ポリオ	教科書 278-291
24		内部障害①虚血性疾患	教科書 292-298
25		内部障害②呼吸器疾患	教科書 299-304
26		内部障害③糖尿病	教科書 304-317
27		がん、高齢者に多くみられる疾患①骨粗鬆症・廃用症候群	教科書 318-347
28		高齢者に多くみられる疾患②認知症	教科書 347-352
29		小児疾患①脳性麻痺	教科書 353-358
30		小児疾患②筋ジストロフィー症・二分脊椎	教科書 358-361
その他の事項			
教科書だけでなく、動画等を用いることがあります。対面授業の冒頭では、それまでの授業回での不明点等について質問時間を設けます。			

授業概要					
学 科	第 2 鍼灸科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	3 0	実施時間数	3 0
担当教員	棟居 清峰				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	業界にて働いていくうえで、法律に則ってはりきゅう施術を行うことは必須である。本授業では、あはき法や医療関係の各種法律について教授し、関係法規への理解を深めることを目的とする。				
教 科 書	関係法規 第 7 版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社				

具体的な到達目標	
目標 1	あはき法について理解し、説明することができる。
目標 2	医療関係法規について理解し、説明することができる。

評価と試験			
前 期			後 期
試験成績	1 0 0 点		
平常点	0 点	算出方法	算出方法
出席点	0 点	算出方法	算出方法
その他		算出方法	算出方法
試験日	後日伝達		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☐	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、あはき法の歴史、あはき法の目的と必要性、免許制度の意義と資格要件	
2		免許に関する事務、施術者の身分	
3		業務範囲と施術の注意、施術所の規則	
4		施術所の名称制限、広告制限	
5		学校及び養成施設の認定、入学資格等、指定試験機関・指定登録機関の役割	
6		施術者、施術所、指定試験（登録）機関に対する罰則の範囲と量刑	

7	病院、診療所等の医療法に規定される施設の要件、医師及び他の医療職種の免許と業務
8	薬剤師法、医薬医療機器等法の目的・意義
9	健康増進法、地域保健法、精神保健・福祉に関する法律の概要
10	感染症予防及び予防接種に関する法律の概要
11	社会福祉法、生活保護法、児童福祉法、老人福祉法の概要
12	身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、障害者自立支援法の概要
13	介護保険法、高齢者医療に関する法律の概要
14	個人情報保護に関する法律
15	総復習

その他の事項

授業内に問題演習を行う予定。

授業概要					
学 科	第2 鍼灸科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	2	必要時間数	3 0	実施時間数	4 0
担当教員	松浦 穰士				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	鍼灸治療の臨床の場においてよく遭遇する疾患・症状に対して、正経や奇経を用い治療法を考察する力をつける。また、奇穴や特効穴、奇経治療、頭皮鍼・髪際鍼なども紹介するので、実際に使用する意義や方法などを学習する。				
教 科 書	教科書は指定しない				

具体的な到達目標	
目標 1	経穴の取穴や部位だけでなく臨床にあった取穴術を理解する。
目標 2	正経だけでなく、奇穴など特効穴を配穴できる。
目標 3	頭皮鍼・髪際鍼の方法を理解する。
目標 4	奇経治療の応用を理解する。
目標 5	鍼灸院で良く見る疾患について、問診や治療法の配穴を自分で決める。
目標 6	良導絡治療法を理解する。
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	90%		
平常点	10%	算出方法	小テスト
出席点		算出方法	
その他		算出方法	
試験日			

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	鍼灸師の免許を有する。鍼灸治療院にて 24 年の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸治療院において、特に遭遇することの多い疾患に対して、診断や配穴方法を紹介する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		手の三陰経の主要穴	
2		手の三陽経の主要穴	
3		手三陰三陽のまとめ（対面）	
4		足の三陰経の主要穴	
5		足の三陽経の主要穴	
6		腹部・背部の主要穴	
7		足三陰三陽のまとめ（対面）	
8		消化器疾患（糖尿病）に対する治療法	
9		うつ病（心の病）に対する治療法	
10		自律神経症状（めまい等）に対する治療法	
11		自律神経症状に対する治療法の解説（対面）	
12		耳鍼療法（瘦身療法）	
13		高齢者に対する治療法	
14		頭皮鍼・頭髪際鍼の方法（対面）	
15		試験の解説、良導絡治療の方法（対面）	

その他の事項

実際の臨床で特に効果のある経絡・経穴を紹介するのでぜひしっかりと学習してください。経穴の部位がまだしっかりと入っていない人は予習をして受講してください。

専 門 分 野（ 東洋医学臨床論Ⅰ ）シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2025 年度シラバス

授業概要					
学 科	第2 鍼灸科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	3	必要時間数	4 8	実施時間数	4 8
担当教員	勢志 有次				
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム		
授業目的	平成26年4月開催の第100回社会保障審議会給付費分科会の地域包括ケアシステムの中の資料に“鍼灸師”の名前が明記され、医師・看護師、ケアマネージャーをはじめとする多彩な職種のスタッフと互いの専門性を活かしながら連携する「チーム医療」の一員としての役割が求められています。そのため、本講義では臨床上遭遇しやすい症候・疾病に対し、チーム医療として必要な共通言語及び東洋医学の専門性、特に鑑別診断と鍼灸治療を学習する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、新版東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉、南江堂、2022年				

具体的な到達目標	
目標 1	疾患概念と症状を述べることができる〔現代医学分野〕
目標 2	類似する疾患群の鑑別診断の要点を述べることができる〔現代医学分野〕
目標 3	鍼灸適応の場合の治療穴を述べることができる
目標 4	各疾患の分類について説明ができる〔東洋医学分野〕
目標 5	各疾患について病因病機を説明することができる
目標 6	八綱弁証及び気血津液弁証、臓腑弁証の応用ができる
目標 7	東洋医学的配穴の根拠を述べることができる
目標 8	代表的な徒手検査法について名称、方法、病巣について述べるができる
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	9 0 %		
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	1 0 %	算出方法	欠席 1 回減点 2 点、遅刻 1 回減点 1 点
その他	算出方法	算出方法	
試験日	後日伝達		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	鍼灸師の免許を有する。鍼灸治療院を開院し、1 5 年以上の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸臨床の現場において特に遭遇する頻度の高い疾患、症状に対して基本的な診断ならびに治療方法を学ぶ。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、Ⅱ. 頭痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（１）	
2		Ⅱ. 頭痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（２）、Ⅰ. 概説	
3		Ⅲ. 顔面痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
4		第４節 その他の症候 Ⅰ. 顔面麻痺に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（１）	
5		第４節 その他の症候 Ⅰ. 顔面麻痺に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（２）	
6		Ⅴ. 頸肩腕痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（１）	
7		Ⅴ. 頸肩腕痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（２）	
8		Ⅵ. 上肢痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
9		Ⅶ. 肩関節痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
10		Ⅷ. 腰下肢痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
11		Ⅸ. 腰痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（１）	
12		Ⅸ. 腰痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（２）	
13		Ⅹ. 下肢痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
14		Ⅺ. 膝痛、Ⅳ関節痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
15		運 動 器 疾 患 復 習 ・ ま と め ①	
16		運 動 器 疾 患 復 習 ・ ま と め ②	
17		運 動 器 疾 患 復 習 ・ ま と め ③	
18		2－3 脾系統 Ⅶ. 歯痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
19		2－1 肝系統 Ⅰ. 眼精疲労に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
20		2－1 肝系統 Ⅲ. めまいに対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
21		2－5 腎系統 Ⅱ. 耳鳴り・難聴に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
22		2－5 腎系統 Ⅰ. 脱毛症に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
23		2－1 肝系統 Ⅱ. 気分障害に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
24		総 復 習	

その他の事項

【学習アドバイス】

知識として要求されるのは、『臨床医学総論』、『臨床医学各論』、『経絡経穴概論』、『東洋医学概論』の分野です。この科目は単独で学習する類のものではなく、他の科目の知識がいかに身についているかが問われるものと言えますので、まずは上記科目をしっかりと確認することが必要です。そのためにも授業前後、または授業中にわからない項目についてその都度、上記４科目の教科書・ノートを確認するようにしてください。

専 門 分 野 (東洋医学臨床論Ⅱ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2025 年度シラバス

授業概要					
学 科	第2 鍼灸科	学 年	3 年	学 期	学期を選択
単 位 数	3	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	棟居 清峰				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	東洋医学臨床論は、治療各論を重点に展開する。臨床現場で遭遇する症候や疾患に対して、西洋・東洋医学の両面から診断、治療の適否について学習する。				
教 科 書	新版 東洋医学臨床論くはりきゅう編＞ 南江堂、新版 東洋医学概論 医道の日本社 臨床医学各論 医歯薬出版社、臨床医学総論 医歯薬出版 等				

具体的な到達目標	
目標 1	症候の禁忌、適応の判断ができる。
目標 2	疾患、症候を東洋医学的、現代医学的の両面から病態把握ができる。
目標 3	疾患、症候に対する鍼灸施術を説明できる。
目標 4	疾患、症候固有の症状、反応などを説明できる。
目標 5	疾患、症候に対する治療経穴の部位、支配神経、支配筋などが説明できる。
目標 6	腹診、脈診、痛みの分類から病態を判断ができる。
目標 7	加齢に伴う病態について、説明できる。
目標 8	国家試験問題を解き、解答に対する説明ができる。
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	1 0 0 %	1 0 0 %	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	後日伝達	後日伝達	

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☒	無 ☐	
教員の实務経験			

実務経験
をいかした
教育内容

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		第2章各論 第2節 2-2心系統Ⅰ 動悸・息切れ	シラバス説明含む
2		第2章各論 第2節 2-2心系統Ⅱ 血圧異常	
3		第2章各論 第2節 2-2心系統Ⅲ 睡眠障害	
4		第2章各論 第2節 2-3脾系統Ⅰ 食欲不振	
5		第2章各論 第2節 2-3脾系統Ⅱ 肥満	
6		第2章各論 第2節 2-3脾系統Ⅲ やせ(るい瘦)	
7		第2章各論 第2節 2-5腎系統Ⅲ 排尿障害①	
8		第2章各論 第2節 2-5腎系統Ⅲ 排尿障害②	
9		第2章各論 第2節 2-5腎系統Ⅳ ED(勃起障害)	
10		第2章各論 第3節Ⅰ 疲労と倦怠	
11		第2章各論 第3節Ⅱ 発熱	
12		第2章各論 第3節Ⅲ 冷えⅣ のぼせ	
13		東洋医学臨床論総合 まとめ・問題演習	
14		東洋医学臨床論総合 まとめ・問題演習	
15		第2章各論 第3節Ⅴ 浮腫	
16		第2章各論 第3節Ⅵ 掻痒感・肌荒れ・発疹	
17		第2章各論 第4節 その他の症候Ⅱ 歩行異常	
18		第2章各論 第4節 その他の症候Ⅲ 口渇	
19		第2章各論 第4節 その他の症候Ⅳ 出血傾向	
20		第2章各論 第6節 小児特有の症候①	
21		第2章各論 第6節 小児特有の症候②	
22		第2章各論 第7節 老年特有の症候①	
23		第2章各論 第7節 老年特有の症候②	
24		(臨各)加齢に伴う病態 a. フレイイル b. サルコペニア、c. ロコモ	
25		(臨各)加齢に伴う病態 d. 治療 まとめ	
26		各種の検査・指標、運動療法の病態と治療など	
27		東洋医学臨床論総合 まとめ・問題演習	
28		東洋医学臨床論総合 まとめ・問題演習	
29		東洋医学臨床論総合 総合問題演習	
30		東洋医学臨床論総合 総合問題演習	
その他の事項			

<授業の概要>

教科書および配布資料を用い、授業を行います。

<教員から>

東洋医学臨床論は東西の異なる医学で学んできた内容を総合した科目になります。両方の視点をもって診察から病態把握、施術が出来ることを目標とします。臨床医学各論、臨床医学総論、リハビリテーション概論、経絡経穴概論、東洋医学概論などの教科に関連する科目ですので、都度、復習等を推奨します。

<連絡先>

munesue@butsugen.or.jp

専 門 分 野 (はりきゅう理論Ⅱ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2025 年度シラバス

授業概要					
学 科	第2 鍼灸科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	2	必要時間数	40	実施時間数	40
担当教員	金井 優也				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	本授業では人体に鍼灸施術をすると、どのような作用機序で効果を発揮するかを学ぶ。その作用機序を理解するためには生理学の知識が必要になってくる。従って、生理学の知識を再教授し、その知識が鍼灸施術に連結する事を目的とする。また、国家試験に出題される問題に対応できる力を育成する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、はりきゅう理論第3版 医道の日本社				

具体的な到達目標	
目標 1	鍼灸治効に必要な生理学的知識を理解し説明することができる。
目標 2	鍼灸の治効機序を理解し説明することができる。
目標 3	関連学説について理解し説明することができる。
目標 4	
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績	70%			
平常点	30%	算出方法	小テスト	算出方法
出席点		算出方法		算出方法
その他		算出方法		算出方法
試験日				

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		運動系の調節（随意運動、反射運動）	
2		運動系の調節（ α — γ 連関と筋緊張）、自律神経による調節	
3		自律神経を介する反射、内分泌系による調節	
4		感覚（痛覚①）	
5		感覚（痛覚②）	
6		感覚（関連痛、痛みと鍼灸、温度覚）	
7		感覚（触覚・圧覚・振動覚・固有感覚①）	
8		感覚（触覚・圧覚・振動覚・固有感覚②）内臓感覚	
9		熱傷（炎症の徴候・出現細胞・制御因子・発痛物質）	
10		熱傷（分類、灸）	小テスト
11		体表の反応、トリガーポイント	
12		鍼鎮痛①下行性痛覚抑制、DNIC	
13		鍼鎮痛②内因性痛覚抑制系	
14		皮膚循環と鍼灸、運動系と鍼	
15		消化器系と鍼、泌尿器系と鍼、リラクセーションと鍼灸、生体防御系と鍼灸	
16		鍼灸治効機序と臨床の接点①	
17		鍼灸治効機序と臨床の接点②	
18		鍼灸治効機序と臨床の接点③	
19		関連学説、まとめ、問題演習	
20		まとめ、問題演習	
その他の事項			
状況により、セイリン工場見学・もぐさ工場見学が授業に落とし込まれる可能性があります。予めご了承ください。			

授業概要					
学 科	第2 鍼灸科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	90	実施時間数	90
担当教員	岩本 奈己 / 井口 智弘 / 金井 優也 / 樋口 雅一				
授業形態	実 習	教 室	第3 実技室		
授業目的	前期では、各症候の東洋医学的、現代医学的な考え方を理解し、特殊鍼灸術を含めた鍼灸実技が安全に行うことが出来る。				
	後期では運動器疾患を中心に、各部位の症状を鍼灸施術により改善できることを目標に、臨床で遭遇しやすい疾患に対し、代表的な治療穴を用いた施術ができるようになる。卒業時に自信をもって鍼灸施術に臨めるように準備をする。				
教 科 書					

具体的な到達目標	
目標 1	鍼通電を安全に行える。
目標 2	間接灸（棒灸・箱灸・隔物灸）を安全に行える。
目標 3	複数の使用経穴に対して、安全かつすばやく刺鍼が行える。
目標 4	特殊鍼灸術を含めた鍼灸実技が安全に行うことが出来る。
目標 5	目的とする場所に鍼尖を誘導できる。
目標 6	病態に応じた鍼灸を選択することが出来る。
目標 7	症状に対して特殊鍼灸術を含めた鍼灸施術を安全に行える。
目標 8	しょうがいに関係する筋肉・神経を理解できる。
目標 9	しょうがいに関係する筋肉・骨を触診できる。

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績	50%		50%	
平常点	50%	算出方法	50%	算出方法
出席点		算出方法		算出方法
その他		算出方法		算出方法
試験日				

＊再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験				
実務経験	有	☒	無	☐
教員の实務経験	〔金井〕はり師・きゅう師の免許を有する。鍼灸治療院にて 2 年間の勤務経験あり。教員養成科附属治療院で 2 年の実務経験あり。本校附属治療所で 6 年間の実務経験あり。 〔岩本〕はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成科附属治療院で 2 年の実務経験あり。本校附属治療所で 3 年間の実務経験あり。 〔井口〕はり師・きゅう師の免許を有する。訪問鍼灸院・鍼灸整骨院・デイサービスにて 2 年間の実務経験あり。			

	大学院鍼灸センターにて 2 年間、往診専門で 4 年間の実務経験あり。本校附属治療所で 2 年間の実務経験あり 〔樋口〕 鍼灸師・トレーナー。鍼灸治療院にて 20 年以上の臨床経験。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸を行う事によりどの様な症状を改善できるのか、またどの様な経過をたどり改善していくのかを伝える。 鍼灸に携わるようになった頃から現在までの感覚の変化も伝えたい。 また、臨床現場で想定しうる疾患に対し、あらゆる観点を踏まえ効果的な治療方法を体現し、使用頻度の高い特殊鍼灸施術を紹介し授業を展開する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		鍼通電①(鍼通電の概要、前脛骨筋・長趾伸筋、長母趾伸筋の筋パルス)	金井
2		足部	樋口
3		鍼通電②(腓腹筋、ハムストリングス、脊柱起立筋の筋パルス)	金井
4		鍼通電③(坐骨神経、尺骨神経の神経パルス)	金井
5		中足骨疲労骨折	樋口
6		耳鍼・鍼通電まとめ	金井
7		棒灸・箱灸	井口
8		隔物灸	井口
9		足関節捻挫	樋口
10		奇経治療	井口
11		足関節捻挫後遺症	樋口
12		経筋治療	井口
13		シンスプリント	樋口
14		接触鍼	井口
15		アキレス腱炎	樋口
16		顔面部刺鍼①	井口
17		オスグッド。ジャンパー膝	樋口
18		顔面部刺鍼②	井口
19		腸脛靭帯炎	樋口
20		灸頭鍼①	井口
21		ランナーズジストニア（ぬけぬけ病）	樋口
22		灸頭鍼②	井口
23		手部	樋口
24		前期試験①	井口・金井
25		月状骨軟化症	樋口
26		前期試験②、特殊鍼灸のまとめ	井口・金井
27		TFCC	樋口
28		急性腰痛に対する鍼灸治療	金井
29		野球肘	樋口

30		慢性腰痛に対する鍼灸治療	金井
31		テニス肘	樋口
32		殿部痛に対する鍼灸治療	金井
33		頸部の凝りに対する鍼灸治療	金井
34		野球肩	樋口
35		肩背部の凝りに対する鍼灸治療	金井
36		頸肩背部の遠隔治療	金井
37		顔面神経麻痺・三叉神経痛の鍼灸治療	金井
38		股関節痛に対する鍼灸治療	金井
39		膝関節痛(膝蓋骨付近)に対する鍼灸治療	金井
40		<u>後期試験①</u>	金井、岩本
41		<u>後期試験②</u> 、手部の触診・手部の特効穴、	岩本、金井
42		手根管症候群・ドゥケルバン症候群の鍼灸治療	岩本
43		寝違い・後頸部の鍼灸治療	岩本
44		頭痛に対する鍼灸治療	岩本
45		風邪・胃腸症状に対する鍼灸治療	岩本

その他の事項

【授業に関して】

ホワイトボードに図等を描くことがあります。必要な方は紙に書いてください。

写真など画像に残す・講義の録音は原則禁止とします。

【試験について】

・前期試験は、井口・金井の授業範囲の試験を実施します。試験の合格を以て試験成績の50%に換算します。

・後期試験は、岩本・金井の授業範囲の試験を実施します。後期の合格を以て試験成績の50%に換算します。

試験不合格の場合は0点となり、再試験合格にて鍼灸実技Ⅱの評価は60点となります。

尚、試験の補助または患者役として授業担当外の教員が入ることもあります。

【平常点について】

① 紙上の施灸 ※提出しなければ点数はありません(加点方式)。

毎月初めに、10枚ずつ施灸用の紙を配布しますので、月末まで(4月除く)に各担任もしくは金井へ提出してください。

(4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月 に実施とする)

前期：施灸用紙50枚提出で平常点50点

後期：施灸用紙20枚提出で平常点50点

② その他(減点方式)

- ・実技道具や実習着忘れ 1回につき1点減点
- ・無断欠席・遅刻 1回につき1点減点
- ・授業中の無駄な私語や教員の指示に従わない場合 1回につき3点減点

【実技実習の到達目標】

鍼：目標課題に対して誤差なく、決められた刺法で刺入ができること。

・深度： 3年生は±2mm以内で刺入できることを最低ラインの目標とする。※但し、目的の深度が1cmの場合は下限を7mmとする。

・角度： (直刺) 90° を目標として刺鍼する。3年生は誤差±10° 以内で刺入できることを最低ラインの目標とする。

(斜刺) 30° から60° であるが、基本45° を目標として刺鍼する。3年生は指定された角度に対し±10° 以内

※斜刺は流注に沿っての角度を計測することとする。

灸：目標 人体に対して3分間に12壮、半米粒大の透熱灸(緩和あり)ができること。

【形・大きさ・壮数・方法・時間】3年生は3分間に米粒大10壮、半米粒大12壮

授業概要					
学 科	第2 鍼灸科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	1 3 5	実施時間数	1 3 6
担当教員	臼井/松尾/上田/下宮/棟居/高橋/金井/岩本/井口/佐藤				
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室		
授業目的	臨床に出て適切に対処できる最低限の知識、技術を身につける。				
	施術者としての自覚を持ち、安全性を十分に考慮した上で施術ができるようになる。				
	「東洋医学的」、「現代医学的」両面から収集した情報をもとに適切な対処ができる。				
	授業で学んだ検査や四診を活用し、患者の病態を把握できるようになる。				
教 科 書	臨床実習の手引き				

具体的な到達目標	
目標 1	施術者としての自覚を持ち、臨床実習に相応しい身だしなみ、態度で積極的に参加することができる。
目標 2	患者の「受入れ・医療面接・触診（切診）・検査法・病態把握・施術方針の決定・施術・評価」の流れをスムーズに行うことができる。
目標 3	安全かつ適切な対処や施術ができる。
目標 4	「東洋医学的」「現代医学的」な病態把握に基づく施術ができる。

評価と試験					
前 期			後 期		
平常点	算出方法	後期に準ずる	41 点	算出方法	その他の事項に記載
出席点	算出方法	後期に準ずる	59 点	算出方法	その他の事項に記載
その他	算出方法		0 点	算出方法	
試験日					

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	〔臼井〕 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業 4 年、他治療院 2 年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリ病院にて、3 年の研修経験あり。福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で 5 年間の実務経験あり。 〔松尾〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸あま指整骨院にて 2 年間の臨床経験あり。本校附属治療所で 1 2 年間の実務経験あり。 〔上田〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。あはき施術管理者。教員養成科附属治療院にて 2 年、鍼灸あま指治療院にて 2 年間、往診専門で開業 8 年、本校附属治療所で 1 0 年間の実務経験あり。 〔下宮〕 はり師・きゅう師の免許を有する。整形外科、鍼灸整骨院にて 4 年間の経験あり。他校附属治療院にて 6 年間の実務経験あり。本校附属治療所で 6 年間の実務経験あり。 〔棟居〕 はり師・きゅう師の免許を有する。鍼灸院にて 9 年間の実務経験あり。教員養成科附属治療院にて 2 年間、往診専門で 2 年間、本校附属治療所で 1 5 年間の実務経験あり。 〔高橋〕 はり師・きゅう師の免許を有する。免許取得後、教員養成科時代に附属治療院にて 2 年間の実務経験あり。

	本校附属治療所で6年間の実務経験あり。 〔金井〕はり師・きゅう師の免許を有する。免許取得後、教員養成科時代に附属治療院にて2年間の実務経験あり。鍼灸治療院にて2年間の勤務経験あり。本校附属治療所で6年間の実務経験あり。 〔岩本〕はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成科附属治療院で2年の実務経験あり。本校附属治療所で3年間の実務経験あり。 〔井口〕はり師・きゅう師の免許を有する。訪問鍼灸院・鍼灸整骨院・デイサービスにて2年間の実務経験あり。大学院鍼灸センターにて2年間、往診専門で4年間の実務経験あり。本校附属治療所で2年間の実務経験あり。 〔佐藤〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において7年間の臨床経験あり。本校附属治療所で14年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	（鍼灸） 鍼灸師にとって必要な東洋医学的理論に基づく治療配穴や刺鍼および施灸方法とその刺激の調整について教育する。また、西洋医学理論に基づく筋肉や神経に対して、適切な鍼の深度と角度で施術ができ、必要に応じて施灸をすることができるよう教育する。

授業の内容		
回数	内容	備考
1～68	来所患者に対し、教員管理のもと施術を行う。	

その他の事項
<出席点>59点 - 総授業数の3/4以上の出席をもって59点とする。出席が3/4に満たない場合、加点はしない。 <平常点>41点 ※ポートフォリオを提出しなければ点数はありません。 【加点方式】 - ポートフォリオの提出（4月～12月 計8回） - 月初めに掲げたパーソナルポートフォリオ、テーマポートフォリオを作成し、その成果を纏めたものを月末に提出する。 - 評価は、優（5点）、良（3点）、可（1点）の3段階とする。 - 年間を通じて8回実施する。提出が1度もされなかった場合、臨床実習Ⅱの平常点は0点となり、単位未習得になるため注意 8回すべて提出した場合、ポートフォリオの評価とは別に加点1点とする。 【減点方式】下限40点 - 日々の臨床実習に臨む姿勢（身だしなみ、道具の忘れ、授業態度など） 「欠席届（欠課・遅刻）」の提出（当日欠課の場合、事前の電話連絡の有無など） - 令和7年7月～9月の欠課、令和8年1月以降の欠課、前出以外の期末試験前日及び当日の欠課

授業概要			
学 科	第 2 鍼灸科	学 年	3 年
単 位 数	1	必要時間数	3 0
担当教員	前田 朱美		
授業形態	実 習	教 室	第 1 実技室
授業目的	2 年次に学習した経絡治療理論を基に、経絡治療の実際を学ぶ。気血の状態を把握し、鍼灸を用いて補瀉を行い、一連の流れで全身治療を主体的に行う。		
教 科 書	必要に応じて資料を配布する。		

具体的な到達目標	
目標 1	刺鍼に関わる一連の動作で押手と刺手がスムーズに動くことができる。
目標 2	気血へアプローチするために丁寧な診察ができる。
目標 3	診察から気血の状態を把握することができる。
目標 4	ツボを正しく取穴し、丁寧な刺鍼、施灸ができる。
目標 5	補瀉を理解し、一連の流れで全身治療ができる。

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績	55%（試験の合格を以って 55%を加算する）			
平常点	算出方法		算出方法	
出席点	45%	算出方法	1 回目：-12 点	算出方法
			2 回目：-13 点	
			3 回目：-15 点	
			4 回目：出席不足	
その他	算出方法		算出方法	
試験日				

＊再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	はり師・きゅう師免許を有する。往診にて 3 年間、教員養成科附属治療所にて 2 年間、本校付属治療所にて 5 年間、鍼灸院にて 6 年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	臨床現場で行っていた経絡治療の経験から、実際の治療内容を理論に基づき解説しながら実践する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1	4/11	刺鍼基礎 [押手のつくり方と刺手の使い方]	
2	4/18	刺鍼基礎 [刺鍼時の姿勢、補瀉法]	
3	4/25	刺鍼基礎 [刺鍼に関する一連の流れ]	
4	5/2	診察と取穴 [脈診の復習と要穴の取穴、刺鍼と施灸]	
5	5/9	診察と取穴 [腹診から腹部の取穴、刺鍼と施灸]	
6	5/16	診察と取穴 [背候診から背部の取穴、刺鍼と施灸]	
7	5/23	治療基礎 [置鍼術と単刺術を用いた本治法と標治法]	
8	5/30	治療基礎 [てい鍼など刺さない鍼を用いた施術]	
9	6/6	治療基礎 [四診から鍼の補瀉、灸の補瀉を考慮した施術]	
10	6/20	治療基礎 [一連の流れで施術]	
11	6/27	治療基礎 [一連の流れで施術]	
12	7/4	治療基礎 [一連の流れで施術]	
13	7/11	治療基礎 [一連の流れで施術]	
14	7/18	試験	
15	7/25	治療基礎 [一連の流れで施術]	

その他の事項			
・身だしなみについては、実技実習に関する身だしなみルールに準ずる。			